

# 東京天台

平成十九年  
春 彼 岸 号

発行所  
天台宗東京教区  
107-0062 東京都港区南青山1-3-2  
TEL.03-5785-3481  
杜多道雄



沼田市利根沼田文化会館

鶴山講福聚教会には全体でおよそ六千名の講員が所属しており、時々の全国大会の他に、通常は東と西のブロックにおいて一年おきに交互に大会が行われる。

「支部」が、舞踊の部では陸奥本部所属の「中尊寺・毛越寺支部」がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

会で、地元群馬本部を始め東日本各地から七十六組約千二百名の講員が集い大盛会となつた。大会テーマは「われらがしるべ、天台宗。われらがほこり、比叡山」と掲げられ、各チームは日頃の研鑽の成果を發揮し、存分に詠唱・舞踊を行つた。そして総本部による審査の結果、詠唱の部では東京本部所属の「龍宝・明静

天台宗開宗一二一〇〇年慶讃  
東日本奉詠舞大会



詠唱最優秀賞の龍宝・明静支部

讃道の新たな可能性を示して  
いた。

比叡山總本部を中心とした「詠歌講」の名称で、【詠讚道を通じて伝教大師のみ教えを讃仰し、信仰の輪を広め、明るい社会づくりに務める】（会員憲章）ことを目的としている。仏、祖師大師、母なる比叡山を讃仰する「和讃・ご詠歌」を学び、またご詠歌と其に舞う「舞踊」を学ぶ部もある。現在、福聚教会では七十以上の曲が認定され、各寺院



奉舞最優秀賞の中尊寺・毛越寺支部

での法会に出仕して法要に彩りを添えている。

日々の活動では、定期的に寺院に集い、詠唱や舞踊の稽古を行うが、指導員はその詞の解説を行うことが定められている。一文字一文字の意味を大切にしていくことで、この活動が単なる「歌や踊りのお稽古」に留まらず、仏教学習の場として機能しているのである。それはつまり、会員憲章に謳われている精神の実践なのである。

声を出し、体を動かし、仏さまの心を学ぶ、心身の健康に最適なご詠歌、ぜひ多くの方々に参加をすすめたい。

## 心のクセ

ある朝、子どもたちが布団の上でけんかをしていました。

お互いに言い合って止めません。やれやれ、朝からうるさくてかなわない。そう思いながら二人を引き離し、ゆっくり深呼吸をさせてから話を聞きました。

「お兄ちゃんも、蹴つ飛ばしたのはいけないことだよね」…

兄「ごめんね」

ようやくお互いに謝って、一

件落着しました。

我れ昔より造りしところの諸の悪業は、皆な無始の貪瞋癡に由る

仏教では、人間は貪(むさぼ

り)・瞋(いかり)・癡(おろかさ)という煩惱を抱え、行動してしまう存在であると説きます。ですから、仏前において日々の生活を振り返り反省するための「懺悔文」をお唱えします。懺悔とは自分を見つめなおすということです。

世界中の言葉の中でも日本語ほど難解な語学はない」と云われている。特に「おはよう」「さようなら」や「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」などの挨拶用語は短いのに長い解説が必要のようだ。例えば英語ではサンキュー

（あなたに感謝します）と直訳的に表現できる「ありがとうございます」は、有り難いほどに偶然性を語源とする仏教用語で、考えられる限り最大限の謝辞なのである。

子供の頃、自分の家のご飯を食べるのに何で「いただきます」と言わなければいけないのかと母に聞いた記憶がある。母は汗水流してお米を作つてくださいたお百姓さんに感謝するのだと教えてくれた。大家族の食卓を一手に賄う母自身への謝辞

でもあるとはおくびに出さないところが明治人の気骨なのだろうと今にして思う。

食事は一粒のご飯も切れの副菜も、多くの人々の努力と動植物の犠牲のうえに成り立っている。だから恒常に使われる「いただきます」は受取人が特定されない万物への報恩の言葉なのです。

## 生活に生きる仏教

「最初は、どっちが乗つかってきたの？」

兄「お腹に弟の足が乗ってきた」

弟「僕、やつてないよ」

兄「でも、乗つかってきた」

弟「お兄ちゃんこそ、蹴つ飛ばしたじゃないか」

また繰り返しです。

「わざとやった訳じゃないけど、お兄ちゃんの上に足を乗つけたのは本当のことだよね。お兄ちゃん痛かつたって。どう

いとにかくわらす、身体によ

誰もがこのような、ものの見方や発言や行動をしてしまって、他人を傷つける原因となります。

自分も、そして他人も「心の

クセ」を持ついると省みる

ところから、懺悔は始まるのです。

私たち普通に日常生活を送つていれば、特別な悪事など行つていないと考えます。しかし、実は意識するとしないとにかくわらす、身体によ



主や料理人に  
てあるが、同  
じ発音であり  
ながらも接待

に対する謝礼の言葉として  
も使えるところが日本語

の奥の深さであろうか。「ご

ちそうさま」も同様である。

広く大きなものに感謝の心を表明するところには和が生まれる。

家族が食卓にそろつて

合掌し「いただきま

す」「ごちそうさまでした」と声を掛け合う家族に崩壊

は起きない。

## 淨土のような家庭へ

### 住職隨想

ある社会福祉法人では、当初は戦災孤児救済の為の事業が中心であったが、現在では親の扶養能力欠如による子ども救済の事業が主になってい、て、温かい家庭に恵まれない（特に虐待が多い）子供たちが養育されている。

以前は、子どもたちが中学や高校を修了するまでの養育が多かったのだが、近年さらに、短期間で親の教育も同時に進行して家庭に戻すことを目的一としている。福祉施設も、以前の施設とは違ったグループホームという小規模な形態となり、家庭生活の体験が可能となつた。それは即ち、從来の家庭教育、家庭生活の重要性が認識されてきたからである。

子どもの養育は面倒、教育費の負担が大きい、自分の自由を束縛される、と考える親

が増えているのである。子育てにはもちろん苦労も多いが、親自身に生きがいを与えてくれることや、子どもたちから学ぶことも多くあるものだ。そして光陰矢の如し、子育ての醍醐味の年月はすぐに過ぎていく。その貴重な年月を無関心、無感動に過ごすことは誠にもつたまないことである。

親も子どもたちと一緒に成長を喜び、達成感を味わい、共通の感動を持ちたいものと思ふ。

親子一緒に勝手な行動をとつていて、子どもが危険なことをしていても、親は携帯電話でメールやお喋りに夢中という場面を目にする。せっかく親子で同じ時間、空き時間で過ごしているのに互いに無関心なのは誠にもつたまこと思うのである。

『受戒後、特別に自分が変わったとは思わないが、法名をいただいたことは折々に思い出すし、自分はもう前のこととは違つていてお話しであります。ぜひお説い合わせてご出



富沢さんご夫妻

## 授戒会その後

平成十五年十月に始まつた開宗一千二百年を記念する授戒会も、東京教区では今まで六会場にておよそ千五百名の壇信徒の方々が受戒されました。受戒者の方々は、それぞれに戒めの意義や重みを感じながらその後の日々を過ごしておられることでしょう。

第一回深大寺にて受戒された調布市在住の富沢輝治さんご夫妻にお話をききました。

奥さまはニコニコと『家庭では、私は柔に徹するよう心がけています』と、剛と柔のバランスをうまくとりながら今日も野菜作りにいそしむご夫妻である。

お二人とも、法名を頂いたことをよく想い出すとのお話であつたが、それを想い出すこと 자체が、もう以前の自分とは違つていてお話しであります。ぜひお説い合わせてご出

席下さい。（入場無料）詳しいご案内は菩提寺までお問い合わせください。

◎ 第七回授戒会 開宗記念授戒会も次回で一応の区切りとなります。この機会にどうぞよい縁をいただいて下さい。お申し込みは菩提寺まで。

● 期日・四月二十一日(土)一時  
● 会場・上野寛永寺

## 東京教区からおしらせ

言わなければならぬと思う。ただこの頃は、言うことを聞いてくれなくとも、意見が違つていても、人もいろいろだからと、その後の対応が穏やかになつたよう気がする。・・・

奥さまはニコニコと『家庭では、私は柔に徹するよう心がけています』と、剛と柔のバランスをうまくとりながら今日も野菜作りにいそしむご夫妻である。

お二人とも、法名を頂いたことをよく想い出すとのお話であつたが、それを想い出すこと 자체が、もう以前の自分とは違つていてお話しであります。ぜひお説い合わせてご出

席下さい。（入場無料）詳しいご案内は菩提寺までお問い合わせください。

◎ 第七回授戒会 開宗記念授戒会も次回で一応の区切りとなります。この機会にどうぞよい縁をいただいて下さい。お申し込みは菩提寺まで。

● 期日・四月二十一日(土)一時  
● 会場・上野寛永寺



圓通寺本堂

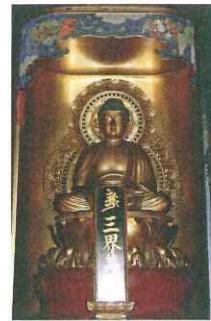


北向脚氣地藏

開山は応仁の頃（一四六七）  
武蔵野風土記稿には、地蔵堂  
阿弥陀堂、本尊は阿弥陀三尊、  
傍に不動をおく、とあるが昭  
和二十年三月十日の大空襲に  
より全焼し、現在は九条家の  
持仏であつたとされる阿弥陀  
如来を本尊に祀つてゐる。

開山は応仁の頃（一四六七）  
武蔵野風土記稿には、地蔵堂  
阿弥陀堂、本尊は阿弥陀三尊、  
傍に不動をおく、とあるが昭  
和二十年三月十日の大空襲に  
より全焼し、現在は九条家の  
持仏であつたとされる阿弥陀  
如来を本尊に祀つてゐる。

開山は応仁の頃（一四六七）  
武蔵野風土記稿には、地蔵堂  
阿弥陀堂、本尊は阿弥陀三尊、  
傍に不動をおく、とあるが昭  
和二十年三月十日の大空襲に  
より全焼し、現在は九条家の  
持仏であつたとされる阿弥陀  
如来を本尊に祀つてゐる。

圓通寺  
北向脚氣地藏

圓通寺本尊

境内には北向脚氣地藏とい  
う変わった名の石地蔵が祀ら  
れている。この像は明治の始  
めに曳舟川より掘り出された

といわれ、深川木場の材木商  
が脚気に苦しんでいたときに  
夢告に北東の石の地蔵を信ず  
祈願したところ快癒し、以来  
人々の篤い信仰を集めていった  
が、いつの頃からか、脚氣と  
念じて煎じたほおずきを飲む  
と、どんな病も治癒するとい  
われるようになつた。

現在の本堂は昭和四十二年  
に落成、平成十五年庫裏、客  
殿等の棟が鉄筋コンクリート  
造りで建立された。近代的な  
デザインで、高窓にステンド

## 正圓寺

火防せ不動

## 天台の寺めぐり

23

墨田区押上

正圓寺は応仁二年（一四六  
八）の開山と伝えられ、浅草  
寺末寺として五百年余の歴史  
がある。記録によると、往時  
の正圓寺は境内二千四百坪に  
本堂、護摩堂、金比羅宮等が



正圓寺本尊

在つて、諸仏諸菩薩が祀られ  
大きな寺院の様であつたが、  
安政二年（一八五五）の大地  
震で全て倒壊し、往時の姿を  
留める建物は現存しない。

## 深瀬の火防せ不動



深瀬の火防せ不動



正圓寺本堂

てきた。当時の記録でも水害  
や盜難の記録はあつても、火  
災による被害の記録はないそ  
うだ。明治二十七年向島の大  
火では「墨堤から出火し、西  
の烈風に煽られて延焼を続け  
たが、急に風向きが変わり延  
焼を免れた」と記録されてい  
る。また、大正十二年の関東  
大震災でも損壊はあつたもの  
の火災は発生せず、昭和十九

火防せ不動

火防せ不動

グラスがあつたり、調度品や  
尊仏像類も近代建築に融合して  
御違和感がない。お寺は和風と  
いう概念を一新させる斬新さ  
と新旧の見事なまでの調和は  
現代寺院建築の在り方を示唆  
しているかのように思わせて  
くれる。

尊仏像類も近代建築に融合して  
御違和感がない。お寺は和風と  
いう概念を一新させる斬新さ  
と新旧の見事なまでの調和は  
現代寺院建築の在り方を示唆  
しているかのように思わせて  
くれる。

尊仏像類も近代建築に融合して  
御違和感がない。お寺は和風と  
いう概念を一新させる斬新さ  
と新旧の見事なまでの調和は  
現代寺院建築の在り方を示唆  
しているかのように思わせて  
くれる。